

カーボンリサイクル技術フォーラムシンポジウム開催のお知らせ

2026 年 2 月 25 日同志社大学カーボンリサイクル技術フォーラムによるシンポジウムを同志社大学今出川キャンパス寒梅館ハーディーホールで開催します。今回のシンポジウムでは熱エネルギーや合成燃料にフォーカスします。

今回のシンポジウムでは、先ず気象変動対策を巡る世界情勢を俯瞰し、日本の進むべき道について探ります。その上で熱利用と合成燃料についてのプログラムを組みました。カーボンニュートラル性を達成するためには CO₂ の発生源と発生量を検討することが重要です。日本のエネルギー需給動向をみると、化石燃料が主に占める 1 次エネルギー供給量のうち、実際に利用されるエネルギーはその 2/3 程度です。残りの 1/3 は排熱として大気へ放出されています。実はその際に CO₂ も同時に排出しています。従って、エネルギーの産業利用方法を見直し、これまで捨てられてきた排熱の活用を推進することは CO₂ の排出量の削減に貢献します。さらに CCUS に係る技術開発では CO₂ の排出回収動向だけでなく、それに関わるエネルギーと関連物質についての検討が必要です。合成燃料の技術開発はかかせません。CO₂ を資源とした自動車向けなど産業用燃料も存在感が増してきました。

2025 年度最後のイベントとなります。奮ってのご参加をお待ちしております。

1. カーボンリサイクル技術フォーラムシンポジウム

カーボンリサイクル技術フォーラムでは来る 2026 年 2 月 25 日にシンポジウムを開催します。

イベント名：2025 年度カーボンリサイクル技術フォーラムシンポジウム

タイトル：カーボンリサイクルを推進する熱利用戦略

開催日：2026 年 2 月 25 日

場 所：同志社大学今出川キャンパス寒梅館ハーディーホールと WEB 配信

時 間：13:30～17:00

入場料：無料

プログラム（予定）：

開会挨拶 小原 克博 同志社大学学長

座長挨拶 寺井 隆幸 座長

(エネルギー総合工学研究所理事長、東京大学名誉教授)

基調講演「気候変動対策を巡る世界情勢と日本の進むべき道」

上野 貴弘 社会経済研究所研究推進マネージャー

(電力中央研究所)

講演 1 「欧州における排熱利用における現状と課題」

Michel De Paepe 教授

(ベルギー、アントワープ大学)

講演 2 「ENEOS のカーボンニュートラルに向けた取り組み」

早坂 和章 サステナブル技術研究所長

(ENEOS 株式会社中央技術研究所)

報告 「2025 年度の技術フォーラムの活動報告」

後藤 琢也 教授

他、講演 1 件を予定

パネルディスカッション ファシリテータ：寺井座長、パネリスト：今回講演される先生方

閉会挨拶 後藤琢也 同志社大学副学長

尚、プログラムは都合により変更になる場合がありますので予めご了承ください。

2. 気象変動対策を巡る世界情勢と日本の進むべき道

人類共通の課題、気候変動。各国はこれを解決すべく、温室効果ガスの排出削減を目標に掲げ 2015 年にパリ協定に合意しました。しかし 2017 年、トランプ米大統領が協定脱退を宣言しました。その後米国はバイデン政権で再び復帰しました。中国やインドなど新興国が条件闘争をはじめ、国際協調が動揺しているなか、今年 2025 年トランプ米大統領が再選されました。COP では努力目標を提示しますが、一方で国内では様々な炭素税などの政策が施行されます。米国、欧州、新興国の利害が

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

同志社大学カーボンリサイクル教育研究プラットフォーム

TEL : 0774-65-8256 MAIL : pf-carbon@mail.doshisha.ac.jp

錯綜する政治力学を、産業、貿易、金融、エネルギーの観点から世界の気象変動対策を俯瞰するとき、激しい国家間対立の終結を目指すと共に、世界も日本も進むべき道に答えを出さなければならないときが迫っています。

今回のシンポジウムでは「グリーン戦争—気候変動の国際政治（中央新書）」の著書もある、電力中央研究所社会経済研究所研究推進マネージャーの上野貴弘先生に「気候変動対策を巡る世界情勢と日本の進むべき道」についてお話を頂きます。

3. 排熱活用の重要性

日本のエネルギー需給動向を見ると、輸入した化石燃料を主体とするエネルギー源のうち、実際に有効に利用されるエネルギーはその約 2/3 です。1/3 は排熱として捨ててしまっている現実があります。一次エネルギーのうち 7 割を化石燃料が占め、それを燃焼により熱としてエネルギーを利用するので、同時に CO₂ も排出されています。このことは排熱利用を推進すると、省エネと CO₂ 排出量の削減の両方に大きく貢献することを意味します。

今回のシンポジウムではランキンサイクルやヒートポンプで多くの業績を持つ、ベルギー・ゲント大学教授の Michel De Paepe 先生に「欧州における排熱利用における現状と課題」についてお話を頂きます。

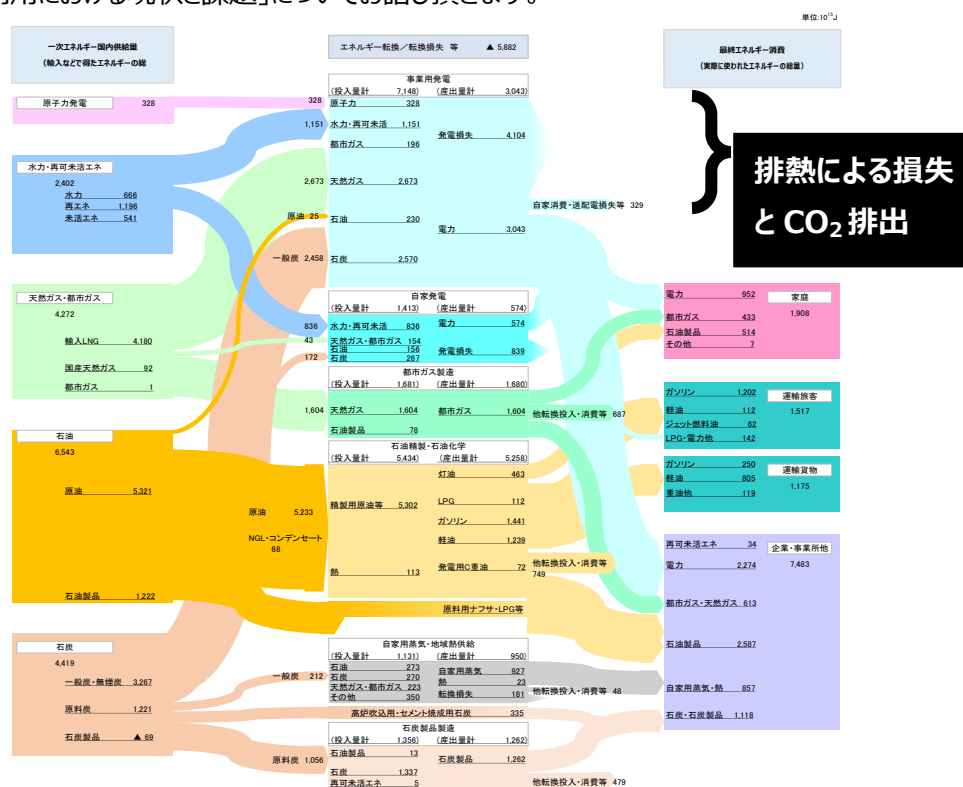


図 日本のエネルギー・フロー概要(資源エネルギー庁令和3年度エネルギーに関する年次報告より作成)

4. 合成燃料

航空・自動車・船舶などのモビリティや、化学品・潤滑油の原料など幅広い分野のカーボンニュートラル性に向けて、燃料を商材にする各社では既存のガソリン、ジェット燃料、軽油などの石油製品の代替が可能である合成燃料の製造技術の開発に取り組んでいます。産業排ガスや大気から回収した CO₂ と再生可能エネルギー由来の水素を原料として製造される合成燃料は、製品ライフサイクル全体において CO₂ 排出量を抑えることができ、社会の温室効果ガス排出削減への貢献が期待されます。

今回のシンポジウムでは ENEOS 株式会社中央技術研究所サステナブル技術研究所長の早坂和章先生により、「ENEOS の合成燃料の取り組み」についてお話を頂きます。

【基本情報】

所在地: 〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3

大学法人名: 学校法人同志社 同志社大学

同志社大学担当組織: 同志社大学カーボンサイクル教育研究プラットフォーム

事業実施統括・代表者: 後藤琢也(副学長・研究開発推進機構長)

URL: <https://crpf-doshisha.com/>

お問い合わせ先: 同志社大学 研究開発推進機構 研究企画課カーボンサイクル教育研究プラットフォーム事務局

TEL: 0774-65-8256 Mail: pf-carbon@mail.doshisha.ac.jp

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

同志社大学カーボンサイクル教育研究プラットフォーム

TEL: 0774-65-8256 MAIL: pf-carbon@mail.doshisha.ac.jp